

ヤリイカ幼体の分布量調査結果

2008 年 10 月 22～28 日、試験船青鵬丸により本県太平洋南部海域で、冬季来遊群の漁期直前におけるヤリイカ幼体の分布状況を把握するため、着底トロール調査を行いました。

その結果、調査点 9 地点での平均分布密度は 12.5 個体/1,000 m²で、過去 5 ヶ年平均比 449%、前年比 509%と近年では 2001 年に次ぐ高い分布でした。平均外套長は 94mm で、過去 5 ヶ年平均比 94%、前年比 105%と前年並みの大きさでした。

これら平均分布密度と外套長から重回帰式を用いて 2008 年漁期（8 月～翌年 2 月）の冬季来遊群の漁獲量を予測したところ、約 2,000 トン（参考値）と推定されました。この方法による漁況予測はデータ数が少ないことなどから予測精度が低いため、あくまで参考値となります。なお、漁獲データに基づく漁況予測は、例年どおり今月下旬頃に発表予定です。

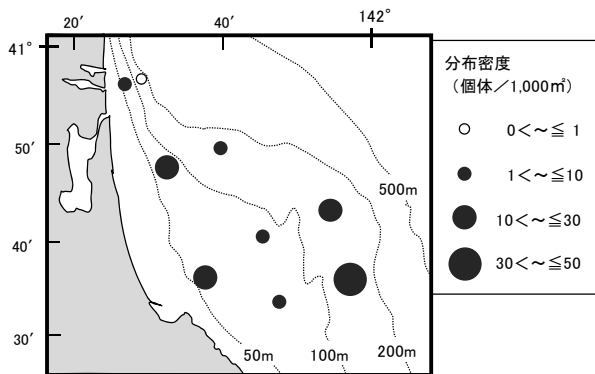


図 1 調査点ごとの分布密度

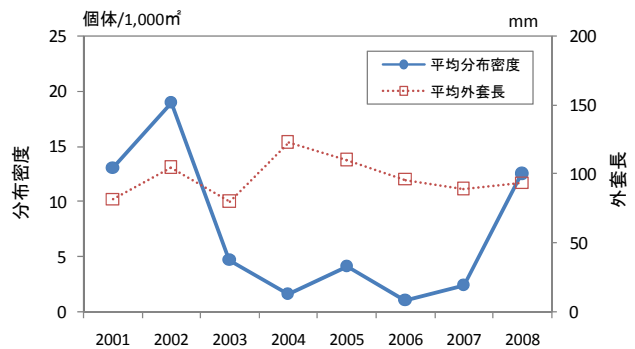


図 3 平均分布密度・外套長の経年変化

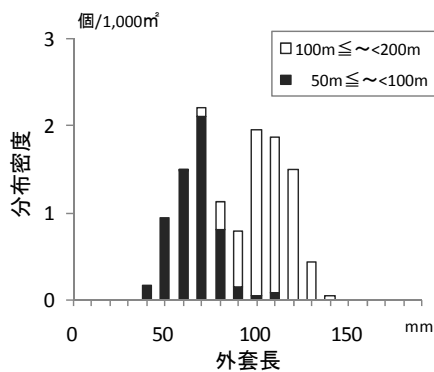


図 2 水深別外套長組成

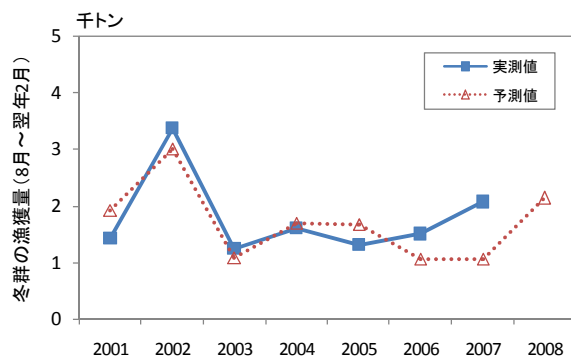


図 4 冬季来遊群漁獲量の予測値と実測値